

平成23年度 大田区区民協働推進会議（第四回）

次 第

平成23年11月4日（金）

18時30分～20時30分

本庁舎 教育委員会室

- 1 地域力・国際都市担当部長 あいさつ
- 2 会長あいさつ
- 3 地域力応援基金助成事業の継続審査について
  - (1) 経過観察（報告）
  - (2) 継続審査員の選定
    - ステップアップ・ジャンプアップ助成・・・審査対象 8団体（予定）  
書類審査員 2名 — 審査期間（12月8日（木）～12月16日（金））  
面接審査員 2名 — 審査日（1月20日（金）午後（予定））
    - スタートアップ助成・・・審査対象 7団体（予定）  
途中報告会の審査員 2名 — 審査日（1月28日（土）9時～12時）  
—NPO・区民活動フォーラムにて  
書類審査員 2名 — 審査期間（2月6日（月）～13日（月））
- 4 被災地支援の報告
- 5 第五回推進会議（助成事業の検証）について  
開催日 11月30日（水）本庁舎 202会議室  
開催時間 18：30～20：30
- 6 地域力応援基金助成事業・ステップアップ・ジャンプアップ助成の審査
  - (1) 資料確認
  - (2) 報告
    - 書類審査 8月17日（水）～9月7日（水）  
・ステップアップ助成—17団体 ・ジャンプアップ助成—6団体
    - プレゼンテーション審査 10月22日（土）  
・ステップアップ助成—10団体 ・ジャンプアップ助成—4団体
  - (3) 審議

---

【出席者】

青木委員 大塚委員 平林委員 中島委員 伊藤委員 神田委員 保知委員  
遠藤委員 田中委員 廣瀬委員

地域振興部地域力・国際都市担当部長、区民協働担当課長、地域力連携協働支援員  
区民協働担当2名

事務局 定刻になりましたので、第 4 回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。

本日、委員 11 名のうち 10 名ご出席していただいています。会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。

部長 《部長あいさつ》

事務局 続きまして、会長にご挨拶をお願いいたします。

会長 《会長あいさつ》

事務局 ありがとうございます。この後は、会長に進行をお願いします。

会長 これより審議に入らせていただきます。まず、地域力応援基金助成事業の継続審査について事務局より説明をお願いします。

事務局 経過観察についてですが、ステップアップ助成については皆様のご協力のもと、すべてを終了いたしました。ありがとうございました。6 月 20 日から経過観察に行っていました。

また、スタートアップ助成の経過観察についても、3 団体終了しております。そこで今まで経過観察に行っていた委員の方に、ご感想や事業の着目点などをお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

—経過観察の報告については、審査にかかわるため非公開—

事務局 ありがとうございました。それでは継続審査員の選定に入りたいと思います。

次第に書いてあるとおり、スタートアップ助成、ステップアップ助成の継続審査を行います。団体と関連がある委員の方は審査員になれません。審査員の選出をお願いします。

会長 ただいまの説明内容につきまして、それでは、審査員の選出を行います。

#### 《審査員選出》

では、選出委員の皆様よろしくお願いします。

次に「被災地支援」について、事務局より報告をお願いします。

課長 大田区被災地支援ボランティア調整センターの最近の動きについて、区内被災者支援と東松島市支援と今後の課題の 3 点についてご報告いたします。

区内の被災地支援について 相談会を実施しました。司法書士、弁護士、エセナおおたの相談員、区役所の保健師、ケアマネジャーの協力で実施しました。気軽に来れるサロン活動をということで、被災地支援センターでバスマット作りやマッサージと抹茶を鍼灸マッサージ師の協力を得て実施しました。被災地の新聞を取っていますのでそれを読みにくられる方もいらっしゃいます。宅建協会大田支部も住宅探しに協力していただいています。今後の災害時のために、住宅相談、住宅仲介といったことを 10 月 28 日に協定を結びました。東松島市への支援ですが、10 月末までに、ボランティアバスが 55 回、ボランティア数が 1,260 名、延べ 3,363 名で支援をおこないました。ランチ交流会では、NPO 法人沙羅の木や鶉の木地区のみなさん、NPO 法人福祉コミュニティおおたが集めた冬

物衣料を配布しました。その際、デパートの服飾売り場に勤めていた方などが、来た方に見立てながらお配りしましたので好評でした。大田区が開くと沢山の人が集まるので、東松島市の保健師にも来ていただき、健康相談コーナーを同時開催しています。今後も一緒にやっていくということです。在宅での被災者は物資が不足している状態です。食べ物を切り詰めたり、電気代を気にしてエアコンをつけないなど、大田区で聞き取った調査内容については市役所にも伝えています。また、大田区では町工場と連携して土囊スタンドを開発するなど、ものづくりで被災地支援をするということで、マスコミにも取り上げられています。今後の予定ですがルールを決めて冬物衣料を集めたいと思っています。継続していきたいと思います。区内のスーパーに避難者相談会のお知らせを貼ろうと思っています。また大田区に避難してきている被災者のために、サロン活動や交流会を開きます。おおたふれあいフェスタでは、東松島市の応援ブースをつくります。復興支援で東松島市の商店や観光課も来られ、東松島市長もみなさんにアピールしたいということです。お時間がある方は来て下さい。区内や被災地でのボランティア活動の写真展示もいたします。東松島市赤井地区の復興祭りでは大田区に協力してほしいという要望がきており、ボランティアが手伝います。11月20日のランチ交流会では物資支援に加え音楽演奏、演芸も予定しています。これまでに区民や企業団体のみなさんからいただいた被災地支援の区への寄附金に関して、ホームページで週明けにご報告していく予定です。

会長 ただいまの説明内容につきまして、質問・意見等がございましたら発言願います。  
不足物資はこれから集めるのですか。

課長 来週に集める予定です。

会長 もっと早くお知らせいただければ町会・自治会で集められると思いますが。

課長 タオルを集めたときに沢山集まりすぎてしまいました。今回は短期間で集めさせていただきます。今後も集め方などを考えてまいります。

会長 暖房器具はいかがですか。

課長 現地はプロパンなので、区内のガス器具とは違います。灯油については火事の心配があるとのこと。こたつ、入浴剤の要望があるようです。

会長 必要なものがあつたら声を掛けてください。

課長 こちらこそよろしく願います。

会長 では、次回の推進会議の日時などについて、事務局から連絡をお願いします。

事務局 次回は審議です。助成金事業の検証を行います。ご出席よろしく願います。

会長 続きまして「ステップアップ・ジャンプアップ助成」の審査を行います。

—地域力応援基金助成事業の審査の部分は非公開—

支援員 次回の会議では、助成事業の検証の議論をしたいと思っています。

現在助成が終了した団体について、助成金をもらったことで何ができたのかなどを調査しています。それを材料にして、助成事業のこれまでの検証と制度の見直しにつながる議論を、次回とその後の会議でしていただく予定です。

また、直近の区民協働担当の事業としてコーディネーター養成講座の6回講座が終わりました。講師として六郷地区自治会連合会会長と区管理職に来ていただきました。3年目の事業でしたが、今年度はコーディネーターの定義として、区民活動支援施設などにいるコーディネーター職ではなく、個々の団体の中において、他団体とのつながりを付ける人となりました。前期の区民協働推進会議からの提言に自治会・町会とNPO等の関係が深まっていないことなどのご指摘もあったので、特に異なる団体のつなぎ役になることに主眼をおきました。地縁団体の活動については連合会長と区管理職に、NPOについては外部講師の方に話をいただきました。また、異なる主体同士が連携した事例として、福祉コミュニティ大田の代表に、安心の一とを広める事業で蒲田東地区の町会と協働したことを、また、ピボットフットの代表に、羽田地区でスポーツ GOMI 拾いというイベントを開催し、ごみ拾いをスポーツにすることで、地域が楽しく参加する逆転の発想で事業を展開したことなどを話していただきました。受講生は地縁団体かNPO団体のメンバーでしたので、最後は協働による地域課題解決の構想を組み立てるグループワークに取り組んでもらいました。講座終了後、フォローアップを2回開催して、その後の活動支援も行う予定です。

会長 事例を発表する機会を設けることが大切です。情報はみんなが知らないといけないと思います。どうしたら連携していけるか、みんなでつめていく必要があります。ただ、見るだけ、聞くだけで終わってしまっただけでは連携は進みません。具体例を示さないとなかなか進みません。平成14年から始まっています。まだ進んでいないところがあると思います。具体的に事例を作ってモデルにしていくことです。それでは、時間もせまってきたようですので、この辺で会議を終了させていただきます。皆様、本日はありがとうございました。事務局お願いします。

部長 閉会あいさつ

事務局 これで、第4回 区民協働推進会議を終わらせていただきます。本日はありがとうございました。

《 終 了 》

平成23年度 大田区区民協働推進会議（第五回）

次 第

平成23年11月30日（水）

18時30分～20時30分

本庁舎 特別会議室

- 1 地域力・国際都市担当部長 あいさつ
- 2 会長あいさつ
- 3 地域力応援基金助成事業について
  - (1) ステップアップ・ジャンプアップ助成実施団体の決定について （報告）
  - (2) 経過観察報告 （11月訪問分）
- 4 審議事項  
地域力応援基金助成事業の検証
- 5 第六回、第七回推進会議の開催日の調整について
  - ①第六回推進会議 — 2月上旬（2月6日から10日の間で）開催予定  
内容：ステップアップ・ジャンプアップ助成継続審査と助成事業の検証
  - ②第七回推進会議 — 2月下旬（2月20日から24日の間）開催予定  
内容：スタートアップ助成継続審査と助成事業の検証
- 6 その他  
区民協働担当事業の報告（11月末時点）  
被災地支援の報告

---

【出席者】

青木委員 大塚委員 平林委員 北間委員 中島委員 伊藤委員 田中委員 廣瀬委員

地域振興部地域力・国際都市担当部長、区民協働担当課長、地域力連携協働支援員  
地域協働協力員 区民協働担当

区民協働推進会議（第五回）会議録 平成 23 年 11 月 30 日（水）

事務局 定刻になりましたので、第 5 回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。本日、委員 11 名のうち 8 名の方にご出席いただいています。会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。

部長 《部長あいさつ》

会長 《会長あいさつ》

会長 「ステップアップ・ジャンプアップ助成実施団体の決定」について事務局より報告をお願いします。

課長 《資料に沿って採択団体の説明》

平成 24 年度ステップアップ助成採択団体についてご報告いたします。申請は 23 事業あり、採択事業は以下の 9 事業です。

NPO 法人馬込文士村継承会、交付決定額 250 万円、六郷用水の会、65 万円、昔ながらのトマトの勉強会、120 万、多摩川でボートを楽しむ会、57 万円、NPO 法人福祉コミュニティ大田、280 万円、大森沢田西町会、200 万円、NPO 法人大田区障がい者スポーツ指導者研究会、153 万円、くらやみ坂通りゆっくり走ろう運動、106 万円、NPO 法人東京城南環境カウンセラー協議会、200 万円です。

ジャンプアップ助成は申請 6 事業で採択は 2 事業です。区からの提示テーマ…「地域交流の場づくり」から以下の 2 テーマで募集しました。

ア 異世代の支えで高齢者が憩える地域交流の場づくり

イ 誰もがみどりを育み楽しめる交流の場づくり～平和の森公園(旧緑の展示室)を拠点とした「好縁」づくり

採択団体は、久が原ふれあいサロン虹の部屋、介護者サロン虹、交付決定額 145 万円みどりの縁側づくり、街山プロジェクト、NPO 法人大田・花とみどりのまちづくり、交付決定額 255 万円です。ご報告は以上です。

会長 ただいまの説明内容につきまして、質問・意見等がございましたら発言願います。質問がないようですので、次に経過観察について、事務局より報告をお願いします。

—経過観察の報告については、審査にかかわるため非公開—

会長 ありがとうございます。それでは、これより審議に入らせていただきます。「助成事業の検証」について、事務局より説明をお願いします。

支援員 助成事業が始まり 3 年たちます。平成 21 年度事業は終了していますので、調査をしております。これを基に委員の皆様にご議論していただきたいと思っております。

今年度 3 回で進めていきたいので、おおまかな割り振りを考えました。本日は調査の結果をご報告して、それを基に課題や課題に対する改善の方法などをざっくばらんにご議論いただきたいと思っております。今回出されたご意見を整理しまして次回は更に解決策などのご議論をいただき、第 7 回は改善策の中で来年とり組めるものは取り組んでいくという形で進めていきたいと思っております。

資料 3-1 その 1 は 2 年取り組んで終わった事業、その 2 は 1 年で終わった事業をまとめています。地域協働協力員から詳細を説明します。

協力員 新規、継続を終了した事業（計2年間）について説明します。

《資料に沿って説明》

Blue Life、読み聞かせボランティア交流会「ヒッポ」、PSI 池上自主防犯パトロール隊、外国からの子どもの教育支援を考える会、田園調布グリーンフェスタ実行委員会、ジュニア&ユースコミュニティーCoCo について説明

支援員 1年間のみで終了した事業について説明します。

《資料に沿って説明》

ぶらり、スマイルパソコン、矢口ホテルの会、東京湾藍い海の会、早稲田成年後見サポートセンター、みんなの家

これらの事業には、事業の目標は未達成で、継続申請をしなかったものが3事業、継続申請はしたが実施できなかったものが多かったため継続を認められなかったものが1事業あります。2事業は事業目標が達成されたため、継続は必要ないという発展的なものでした。

まとめですが、新規・継続で2年間実施した事業については助成終了後も、自主的に継続しています。ただ、中には、助成金があった時は会合に出席するための人件費を出していたが、助成終了後は、また無償に戻ったといった例も見られます。論点としては、助成金の望ましい用途はどんなものだろうかということ、区の協力・支援のあり方はどうあるべきか、また申請書類・報告書類はどうあるべきかということ、1年間で終了した事業では、事業目標を達成できるようにどうフォローするか、審査時点で事業のニーズや団体の実行力をどう評価するかです。ご審議をお願いします。

会長 論点をまとめていただきました。いろいろと問題が出ているようです。ただいまの説明内容につきまして、質問・意見等がございましたら発言をお願いします。

支援員 みなさんの関心のあることからお話しください。

委員 区が助成事業を実施したことはよかったと思います。自治体から助成金をもらって事業を行うことは団体の信用になります。また、他の団体と連携して活動を広めてもおられます。団体自身にとって大きな意義があったと思います。実施数が多いことからうまくいかないものもありますが、それはしかたがないことと思います。審査時点でそれを見抜くのは難しいと思いますが、成功の確率はかなり高いと思います。ただ個別に見ていくと改善点はあると思います。団体の助成金申請の心構えや基金の活用の姿勢がないと、そういうことが経過観察や事業の実施に表れてくると思います。スタートアップの団体を育てていくのは難しいと思いますが、団体の活動をどうフォローしていくか、経過観察を頻繁に行くとなった時は委員の負担も大きくなると思いますので、こういう場で団体の情報をみんなで共有していくのがよいと思います。後は、団体の自立、自活にまかせていったほうが良いと思います。

委員 初めに書類審査で具体的に団体に聞いておいた方が良いと思います。申請どおりなっていない場合があります。1年でやめてしまったところは、継続性がないということでしょうが、立ち上げる以上は2年続けてやる、その後は自分たちで続けていくということ基礎作りをしてもらうことを最初にやっけないと無駄金になってしまうのではないかと思います。

委員 組織には二つの要素があると思っています。目標に対する志、それと同時に支える組織力がどこまであるかです。個人がやりたいことで友達を誘ってやったが、組織力が

なかったので継続できなかったのではないかと思います。継続している6団体は後ろだて、連携がしっかりしていると思います。うまくいかなかった団体は、地域で孤立したのではないかという印象があります。孤立させないためには、支える体制を作る方法を教える必要があると思います。本来伸びていい団体がそういうところでつまづいてしまうこともあるのかと思います。申請書の件ですが、この程度の申請書類を書けないのでは2年間継続できないと思います。文書、報告の能力がないところは、社会性をもった活動ができるのか疑問に思います。教えてほしいという希望があれば、組織の維持の仕方やお金、広報などの手法を教えてあげてればいいとの印象を持ちました。

委員 書類は最低限の事務的な処理であり、不得意であれば得意な人を入れればよく、それも連携だと思えます。評価やアドバイスの件ですがかたちづくりのアドバイザー・協力員として次年度以降、組織としてできると良いかと思えます。スタートアップの団体を育てていくための、区の体制づくりになり、その形作りを2回の会議で討議していけばよいと思えます。

委員 継続できなかった事業の理由で自然を相手にするものは、難しいので大目に見ても良いと思えます。申請と計画があっていないのは、減額するなどの必要があると思っています。申請書はうまく作ることもできてしまうため、その後のチェックをしていく必要を感じます。

委員 事務局は評価のシステムを確立していった方が良くと思えます。経過観察した印象では、各団体のリサーチが甘いと思えます。自分たちが特化するターゲットに根回しするなどの必要があると思えます。うまくいっている団体はそれができていると思えます。単にチラシを配付する待ちの姿勢では考えが甘いと思えます。ものさしとしての規準も必要だと思えます。

委員 人件費が半分もらえるのは魅力がある助成です。継続中、その間に工夫することで、有料講座にするとか、人件費は全額でないにしても能力アップにつながると思うので、ここは残しておいてほしいと思えます。申請書類を書いてみると行数、文字数が少ない感じがしました。区の支援についてですが、先ほどの説明で、協働支援や出張所や他団体との横のつながりなどでステップアップできるといい、良いアドバイスになりました。矢口ホテルの会の施設は近所で、見に行きましたが、ホテルを見るのが初めてという子どもたちは興奮していたし、通路は車椅子も通れるようになっていて助成金が生きていたと思えました。周知していきたく思いました。

会長 ありがとうございます。皆様のご意見では、助成金を受けての事業なので継続的にやることと、書類の内容は妥当であるということ、審査の基準を見直すこと等ができています。信頼を得られたことや沢山のひとと知り合えたこと、人件費については抵抗がありますね。人件費はもう少し低額に抑えて、事業にお金をかけたほうがよいと思えます。

助成金の望ましい用途について皆様のご意見をいただきたいと思えます。

委員 人件費は必要だと思えます。若い人が市民活動に参加するためには必要です。交通費程度とと思っています。助成金がなくなっても工夫すればできると思えます。成功事例のアドバイス集があればよいと思えます。

委員 助成事業を継続していくと見えてくる部分があると思えます。事例が出てきた時点で共通点が考えられていくと思えます。

- 委員 人件費を認めてくれる助成金は少ないです。人件費としての金額については悩んでいます。どのくらいが望ましいのかを考えていく必要があると思います。
- 委員 団体の事業の特性により幅を持たせて基準を決めた方が良いと思います。事業の性格によって違ってくると思います。
- 委員 団体により人件費の考え方が違うと思っています。交通費と食事を出しているところもあるし、一切ださないところもあります。団体によりばらばらで比べようがないなと思います。団体の良心を信じるしかないのかなと思います。
- 委員 団体は活動の核をつくって助成をしてもらうものだと思います。人件費についてはある程度、目安を示すことも大事だと思います。助成金は参加される方に還元するという考え方が基本だと思います。
- 委員 団体がミッションや性格に応じて無理な活動をしないことです。基金運営なのである程度の基準が必要だと思います。特にスタートアップ助成は活動まもない団体なので、まず活動をやってみるのが重要だと思います。本格的に事業重視はボランティアではなりたらず、最低賃金並みのものが必要だと思います。団体がNPO法人や社団法人として経験を積み成長していき、雇用の担い手として、正当な対価を支払って人を雇ってほしい、公共の担い手になってほしいと思います。一気にそうはなれませんので、この助成制度ではある程度は認めて継続してほしいと思っています。
- 会長 町会・自治会で東京都や区に助成金の申請をしているが、申請書は東京都の方が難しいし厳しいです。不備だと戻されます。町会・自治会の自分たちのお金も出して助成金を使います。何もなくてやることはしません。助成金で認められない経費は自分たちの経費でまかさないです。助成金で全てを賄うのではなくて、自分たちで稼ぐこと、賛助会費を募るとかの努力も必要です。そうでなければ継続できないと思います。次に区の協力、支援のあり方をどう考えますかについてご意見をお願いします。
- 委員 区の横のつながりが必要だと、活動しているとそう思います。
- 委員 行政の横のつながりは可能な限りお願いしたいと思います。支援については、団体を育成するためという程度の立場を堅持して模索していただくのがよいかと思います。
- 委員 横のつながりは難しいと思っています。むしろ自分たちでつなげるくらいの気持ちです。
- 委員 団体も賢く対応してもらおうと良いと思います。団体の事業が成功するには、行政が後ろにいると強いと思います。行政の力を最大限利用して、賢く実現してほしいと思います。
- 委員 区の施設を使って事業をしてほしいと思っています。使いやすくする必要があると思いますし、活用するノウハウを教えることが大事です。
- 委員 皆さんと一緒にです。
- 会長 何でも頼ったらだめです。団体側の言いたいことは言っていくこと、そうでなければ連携・協働は成り立ちません。平成14年から言っていますが、町会は会費を集めて運営していますから、新しいことを始めようとするNPOは町会と連携しませんかと、資金は何とかなりますと、あと必要ならば都や区に話す、賛助会費をお願いするなど創意工夫して事業をやっていく、目的意識をしっかり持つことが大切です。合理的、効果的に仕事をしていこうと思ったらやはり連携、協働が必要です。町会・自治会は青少対とは一緒に活動しています。
- 委員 青少対の活動では補助金をもらっています。またイベントでの売り上げを活動費にあ

ています。

会長 それでは「区民協働担当事業」について、事務局より報告をお願いします。

課長 区民協働担当事業の報告を簡単にしたいと思います。参加数等は次回の会議で報告させていただきます。各事業のチラシ等を配付させていただいています。チラシづくり講座、年2回開催、リコーテクノシステムの社会貢献として開催しています。パネル作成講座は団体紹介パネルを作る講座です。NPO・区民活動フォーラムで発表します。活動団体かわらばんはmics おおたで区民活動団体のPRをするためのかわらばんです。おおた地域力発見倶楽部講座は11月5日に自治会・町会の方などに地域の中での活動をご紹介します。会計についてこらぼ大森の開催講座、蒲田東急プラザのCSR事業ということで蒲田今昔写真展の開催に協力しました。これからの予定ですが1月28,29日にNPO・区民活動フォーラムを開催します。参加型の企画を募集し、参加者に地域デビューをしていただくもので、まだ案ですがこのように進めたいと思っています。

会長 次に「被災地支援」について、事務局より報告をお願いします。

課長 お配りした11月に発行した被災地支援ニュースをお読み下さい。被災地支援の活動ですが、大田区に避難されている避難者の方に相談会を開催し、7件の相談がありました。次回は12月17日の土曜日に開催予定です。また、サロン活動として、10月にマッサージと抹茶、11月にクッキングと抹茶という催しをしました。現地へのボランティア派遣についての報告ですが、4月からボランティアバス64回、ボランティア延べ3,846人を派遣しました。ランチ交流会も現地で開催し、9月以降は飲料水も配付しました。11月20日からは開催場所を駅前からサテライトに移し、大田区の大工さんたちが、海風が防げるようにとコンパネでテントを囲ってくれました。交流会では楽しんでもらえるようにと演芸などの催しもありました。ふれあいフェスタには、東松島市も参加しました。冬物衣料については引き続き集めたいと思っています。また、高齢などで相談会に来られない人は訪問を予定しています。東京都の住宅支援の申込は、12月までなので知らせたいと思っています。そのための被災者同士の声かけをお願いしているところです。クリスマス会では演劇を楽しみながらの交流会にする予定です。現地では、12月24日にクリスマス会を開きます。大田区の企業や商店の協力でケーキなどを用意します。

また、11月27日に子ども達向けに、工作教室を開催しましたが、好評でした。在宅の被災者のために、暖房器具を用意し何が必要か聞き取り調査をします。都議会では街頭で集めた募金で、大田区の土囊スタンドを購入し、東松島市以外の被災地に送る活動をします。報告は以上です。

会長 ただいまの説明内容につきまして、質問・意見等がございましたら発言願います。また、その他何でも結構ですので、ご発言があればお願いします。それでは、時間もせまってきたようですので、この辺で会議を終了させていただきます。皆様、本日はありがとうございました。事務局お願いします。

部長 《閉会あいさつ》

これで、第5回 区民協働推進会議を終わらせていただきます。本日はありがとうございました。